

第12話（7頁） 犬とネコ

犬とネコがけんかをしました。ネコの食事に、犬がやってきたのです。

ネコは足で犬の鼻をひっかきました。

犬はネコのしっぽをひっかきました。

ネコは犬の目を。

犬はネコの首を。

おばさんが水の入ったバケツをもって通りかかり、ネコと犬にザーッと水をぶちまけました。

「最初は、けんかも大したことはなかったけど、だんだんエスカレートして行って…。途中で自分たちでは止められず、おばさんが割って入るしかなかった。」

「両方に水をぶちまけたんだから、まさに『水入り』だね。（笑い）」

「最初はネコも犬も相手を『ひっかきました』とある。それが、あとでは、わざと動詞を省いている。」

「『ネコは犬の目を』ひっかいたのだろう、やっぱり。『犬はネコの首を』咬んだ。これは致命傷にもなりかねないよ。もともと犬がネコの食事ほしさにけんかを売ってきたのに。」

「そもそも、このおばさんは誰なのか。どうして、その場を通りかかったのか。悪いのは犬なんだから、犬だけに水をぶちまけてもよかったはずだ。」

「それは無理だよ。どっちが悪いかなんて、おばさんにはわかりようがないさ。」

「最初に大状況の説明がある。『犬とネコがけんかをしました』と、いきなり出てくる。こういう入り方は、アーズブカでは珍しいんじゃないか。」